

1) 地下水位一斉観測

地下水位一斉観測では、地下水位は地層分布域によって異なることが示され、基盤のトムル層分布域ではおおむね標高10m～55m、琉球石灰岩及び名蔵礫層分布域では0m～40m、沖積層分布域では0～3mの範囲でそれぞれ分布している。一方、月ごとの地下水位の変動状況を見てみると、各地層分布域とも地下水位は10月頃が最も高く、3月頃が全体的に最も低くなっている。これは、前項の地下水位長期観測の変動図と一致した。

②地質の状況

本調査において確認された地盤は、第四紀完新世の沖積層、更新世の大浜層(琉球石灰岩層、名蔵礫層)、古生代のトムル層など、3種類の地質によって構成されており、それらはさらに構成土粒子の量比や岩質等によって合計7種類程度の土層や岩盤に細分された。水理地質図を図-6.6.1(1)に示す。